

調査等事項報告（団体報告：産業厚生常任委員会）

視察先	福岡県糸島市 隼糸島ジビエ研究所
対応者	代表捌師 西村 直人
視察日時	令和元年5月8日(水)午後4時～午後5時
視察項目	「ジビエを活かした事業」について
視察者	川田 律子、菊池 貞好、長南 誠、茨木 久彌、森 一弘、矢萩 浩次、大飼 司
視察の内容	<p>・隼糸島ジビエ研究所創設の由来</p> <p>平成7年まではイノシシはいなかったが、徐々に増え始め、九州大学在籍中にキャンパス内にイノシシが出没するようになっていた。大学としてもイノシシの駆除事業をやっていたが、捕獲して捨てるのはもったいないということ、大学という環境もあるので学びに生かしたいということで、狩猟研究会を発足しさばいていた。大学4年生の時に17人と事業を発足し、現在は4人である。300万円の資本金、公的な補助を受けて創設した。</p> <p>○福岡県の鳥獣被害状況</p> <p>全国被害額では200億円から164億円ぐらいに減ってきている。ランキングでは、一番が北海道、2番が福岡県となっており、面積当たりでは福岡県が一番大きい。糸島市には平成7年ごろまでイノシシはいなかったとされている。</p> <p>ここ数年で被害が拡大されて、現在の被害額では、イノシシが一番、次にアライグマ、アナグマ、サルでいちごの「甘玉」被害が大きくみかん、柿も被害にあっている。いちごの被害面積は小さいが単価が大きいので被害額が大きくなっている。</p> <p>○捕獲状況</p> <p>福岡市と糸島市が連携して、猟友会の有害鳥獣捕獲隊という組織で捕獲。福岡県全体では、H26年ベースでイノシシ2万5千頭、シカが1万3千頭に上る。</p> <p>捕獲者は、市からの奨励金をもらい更に、研究所に300円/kg～1000円/kgで取引される。</p> <p>○運営方法や問題点</p> <p>九州大学や県の農林試験場との共同研究や日々の勉強を活かし、市の認可施設「浮獄くじらセンター」にて科学的なアプローチで、よりおいしいお肉を追及しています。年間約170体をさばいている。おおよそ150から200頭余りで推移している。</p> <p>自然相手の難しいところで、平均に毎月納入されてくるわけではなく、1月2月は10頭くらいの捕獲で11月12月は100頭以上が捕獲される。日でも1、2頭の時もあれば10頭の時もあり、肉質のバラツキもある。</p> <p>少ないときは売り上げとしても難しくなるので、骨はペットフードや出汁の材料に、毛皮はなめしに出してレザーとして使う。たてがみは、ヘアブラシとして内臓は肥料に活用している。</p>

産業廃棄物に出すのはほとんどない。
流通経路を多く持つことで空き時間を有効に使っている。

○販売品、方法

解体後は、枝肉の状態です1週間ねかせてから出荷となる。

仔イノシシ、イノシシ、活メ鹿、アナグマ、アライグマなどを、丸枝肉から、骨付きカット、ブロック、スライス、ミンチまでチルド/液体凍結にて販売。

ヘアブラシやアクセサリ、レストランも不定期に開催されている。

○今後の問題点

まだまだ、ジビエを買ってまで食べる意識が低いので経営の維持が難しい。

補助金で成り立っているのが補助金なしで儲かる仕組みを作らなければならない。

住民からの「いらぬもので儲けている」という批判を払拭しなければならない。

○所感

研究所の考えでジビエを産業として営んでいくには、難しい面がたくさんあるように感じる。肉の特性を知る知識はもちろん、安定した仕入れができない、個体すべてを余すところなく使おうとするという、同業者には無い発想だと思うが一緒にやろうとする仲間を集めるのは容易ではない事だろう。

視察先	佐賀県神埼市役所
対応者	文教厚生常任委員会副委員長 野口 英樹、教育長 末次 利明、教育委員会社会教育課長 合田 謙三郎、教育委員会社会教育係長 石井 久美、教育委員会社会教育係主査 松尾 昭典、議会事務局長 小柳 正輝、議会事務局係長 嘉村 翼、議会事務局議会係主査 糸山 恭平
視察日時	令和元年5月9(木)午後2時～4時
視察項目	「放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化」について
視察者	川田 律子、菊池 貞好、長南 誠、茨木 久彌、森 一弘、矢萩 浩次、犬飼 司
視察の内容	<p>神埼市 平成18年3月に2町一村と合併し、人口3万1千人余り</p> <p>◎神埼市の放課後対策</p> <p>○放課後子ども教室（文部科学省）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト：1年から6年まですべての子供を対象として、希望者には安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。 ・市内7小学校で合計15教室、月2回（基本は隔週水曜日）開催している。 ・開催場所：各小学校の教室や体育館、運動場で開催。 ・教室内容：コーディネーターや地域のボランティアを講師に迎え、学習支援（宿題の指導、予習、復習、補充学習等）、多様な体験プログラム（実験、工作教室、英会話、文化・芸術教室等）、スポーツ活動（野球、サッカー、一輪車）などがある。 ・参加費：前期、後期に分けて各1,200円、保険料として800円が必要となる。 ・参加時間：15時20分から16時20分 <p>○放課後児童クラブ（厚生労働省）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（コンセプト）共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童に対して、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図る。 ・市内7小学校で合計8クラブを開所している。 ・対象：小学1年生から6年生まで ・開催時間：平日…放課後～18時（延長は、18時30分まで） 土曜・長期休業中…7時～18時（延長は、18時30分まで） ・負担金額：課業日（平日）月額2,000円、別途クラブ費1,000円 土曜日 月額1,000円、別途クラブ費なし ※課業日入会者に限る。 春休み 1,000円、別途クラブ費500円 夏休み 4,000円、別途クラブ費2,000円 冬休み 1,000円、別途クラブ費500円

学年末 1,000 円、別途クラブ費 500 円
延長（～18 時 30 分まで）50 円（18 時 30 分～19 時まで）100 円
その他保険料として 800 円が必要。

○一体型とは

- ・共働き家庭等も含めたすべての就学児童を対象に、共通の活動場所において多様な共通プログラムを実施
- ・活動場所は学校の余裕教室や特別教室（家庭科室や理科室、ランチルーム等）、学校敷地内の専用施設等の安心・安全な活動場所を活用

○取り組みの特徴

- ・小学校敷地内で両事業を実施
児童クラブ利用者も敷地内の移動だけで子ども教室に参加が可能。
- ・コーディネーター、推進員を各小学校区に 1 名配置
学校関係機関との連絡・調整が円滑に。
コーディネーター間で情報交換が可能。
- ・児童クラブ・子ども教室・学校の話し合いの場
児童クラブ・子ども教室・学校の代表者からなる運営委員会を組織。
それぞれが持つ情報を共有し、相互の協力体制を構築。

○村山との比較

- ・村山：学童保育と切り離し育成会の行事は土日を中心で行っている。
活動場所も地域ごとに実施し限定されていない。
活動回数は各地域任せ。
- ・神崎市：学童クラブに行く前に育成会の行事を放課後に実施し、終了後学童クラブに戻る形。
活動場所は、小学校敷地内に限定されている。
活動回数は月 2 回（基本は隔週水曜日）開催している。

○今後の課題

- ・放課後児童クラブ
希望者全員を受け入れるための支援員の確保、施設の確保。
- ・放課後子ども教室
人材確保（地域ボランティアの発掘）

○所感

小学校の敷地内で二つの活動を行っていて安全面では非常に安心できる。

視察先	佐賀県武雄市役所
対応者	お結び課 課長 森 一也、議会事務局 局長 松尾 和久
視察日時	令和元年5月10(金)10時～11時30分
視察項目	「武雄市役所お結び課の事業」について
視察者	川田 律子、菊池 貞好、長南 誠、茨木 久彌、森 一弘、矢萩 浩次、犬飼 司
視察の内容	<p>○武雄市の概要</p> <p>武雄市は平成18年3月1日に旧武雄市、山内町、北方町の1市2町が合併して誕生しました。1万8千世帯、人口4万9千人余り</p> <p>○お結び課の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年9月よりお結び課を開設（現在職員数4人） ・ご縁結び（1対1のお見合い）、ご紹介 ・婚活イベントの開催 ・結婚や婚活に関するご相談 ・登録費用や紹介料は一切頂きません。（食事代やイベント費用は個人持ち） <p>○縁結び支援の流れ</p> <p>ステップ1 登録予約…簡単な説明と登録日の予約を行う。</p> <p>ステップ2 登録…面談による登録を行う。（登録は市外の方でもOK） 自分の事を振り返る「自分磨き講座」を受講してもらう</p> <p>ステップ3 ご縁結び…年齢、職業、相手に求めることなどの情報を元にお結び課でマッチングを行う。</p> <p>ステップ4 紹介、調整…マッチングした男女双方へ連絡し、お会いされるかのご意思確認やお見合いの日程調整などを行う。</p> <p>ステップ5 お見合い…1時間程度で1対1のお見合いを行う。対面の際は、スタッフが同席しお手伝いをする。（傾合いを見て離席する）</p> <p>ステップ6 お見合い後、二人の意思を確認し、想いが一致すればお互いの連絡先を伝える。ご縁がなかった場合もお結び課で対応する。</p> <p>ステップ7 交際スタート…お互いに連絡を取り合い交際スタート。交際中もアドバイスなどの支援をする。交際を重ねて三か月を目途にお互いの結婚観を合わせる。</p> <p>ステップ8 結婚が決まったら退会の手続きをします。 大会の場合は、責任をもって個人情報破棄する。</p> <p>○H30年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者年齢（令和元年5月10日現在） 男性175人、女性112人、26歳から45歳が全体の77%を占め222人となっている。 設立当初は46歳以上が多かったが徐々に減っている。

・新規登録状況

119人、月平均9.9人の登録がある。

・紹介数

888件、月平均74件、

・見合い件数

154件、月平均12.8件（今年2月22件、3月32件、5月7件）

・イベント開催回数

全21回（令和元年度は24回予定）

・成婚者数（平成22年度～令和元年5月10日）

会員同士の結婚21組42人、会員外との結婚119人

○定住支援金、定住特区補助金

・定住支援金…新築、中古住宅又は空き家を購入する方、20万円/世帯

・定住特区補助金…定住支援金のほかに子育て支援加算金10万円/人、住宅新築補助金20万円、土地購入補助金100万円/世帯、新婚世帯加算金10万円/世帯

○所感

職員4人体制で縁談の事だけを考える珍しい課である。市民には頼りにされているところである。定住促進に向けた補助金もあり登録料が一切かからないことも良い事である。お見合いをタブーとする現代の中にあって、若者の登録者も多く市民に広く受け入れられている証拠ではないかと感じる。